

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	62199	ひだ清見イベント開催事業	担当課	清見支所 基盤産業課	内線	3231
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け	○ A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6 商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2 観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1 観光振興費		D	その他事業	
市長の約束	1	積極的な観光資源策を実施します ◎新たな観光資源を発掘し活用します。 ・観光まちづくりを持続可能なものとするため、飛騨地域の民間組織と行政、観光関係者をはじめ、地域住民などの関係者と幅広く連携し、広域ネットワーク化を図ります。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	清見町住民	受益者数	2,609 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	地域内の組織する各種団体が実行委員となり、地域主導のイベントとする。		
概要	事業の実施手法(手段)	夏 夏祭り(盆おどりの復活) 秋 紅葉まつり(牛の丸焼き・クラフト展等)		
	前回の評価からの改善・改革のポイント	受益者負担金の構成比率の増による地域住民主体の運営		

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
① イベント回数	算出根拠等	イベント実行委員会報告数字	達成率(%)	100	100	100	-
			指標名	単位	目標・実績	H21	H22
② 来場者数	算出根拠等	イベント実行委員会報告数字	達成率(%)	100	86	100	-
			指標名	単位	目標・実績	H21	H22
① 観客動員前年比	算出根拠等	イベント実行委員会報告数字	達成率(%)	100	94	117	-
			指標名	単位	目標・実績	H21	H22
②	算出根拠等		達成率(%)				-
			指標名	単位	目標・実績	H21	H22
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)(A)			5,800	5,300	5,300	4,890
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
コスト指標	一般財源			5,800	5,300	5,300	4,890
	指標名			H21	H22	H23見込	H24計画
①	受益者1件当たり(円)(A/B)			232	515	442	408
	受益者	来場者数	(B)	25,000	10,300	12,000	12,000
②	イベント1回当たり(千円)			1,712	2,225	3,300	2,858
	算出根拠等			イベント経費/イベント回数			

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2) 結びつく	A	イベント実行委員会は地域内の各種組織で構成され連携して行っており、市長の公約に結びつく。
	B(1) 一部結びつく		
	C(0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2) 非常に多い、急増している	A	合併前からのイベントで住民に周知されており、市民のニーズは非常に多い。
	B(1) ある程度のニーズがある		
	C(0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2) 市民全体におよぶ	A	来場者が市民全体である。
	B(1) 概ね市民全体におよぶ		
	C(0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2) 十分に達成している (100%以上)	B	イベント回数の減によりバラつきはあるが、概ね達成している。
	B(1) 概ね達成している (75%以上)		
	C(0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2) 有効である	B	合併前からのイベントで住民に周知されており、概ね有効である。
	B(1) 概ね有効である		
	C(0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2) 課題はない・解消されている	B	協賛金等で負担金を増やしており、改善・工夫に取り組んでいる。
	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2) 課題はない・解消されている	A	受益者負担金も増えており課題はない
	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2) 適正である	A	イベントの規模を考えると適正である。
	B(1) 概ね適正である		
	C(0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4) 適正である	A	イベント回数が減ったため1回当たりのコストは上がったが、秋の紅葉まつりが主体でありコストは適正である。
	B(2) 概ね適正である		
	C(0) 改善が必要である		
合計		17.0 / 20.0	100点換算 → 85 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	清見の特色を活かすイベントとして観光客の誘致増加と畜産を核とした産業の活性化のため継続する。				

総合評価(二次評価)	維持・改善	拡大	○ 縮小	廃止の検討	完了
	・地域主体の事業とすべく、負担金の段階的な引き下げを行う必要がある。 ・特例期間終了を見据え、地域への波及効果などの分析を行いつつ、行政の関与を段階的に縮小していく必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	5,300	4,890	△410	4,900	4,900
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	5,300	4,890	△410	4,900	4,900

予算要求の概要	イベント開催負担金
要求額増減理由	ひだ清見雪まつり取りやめによる減
①支所	
	イベントの企画・運営を実行委員会が主体性を持って実施する必要がある。誘客PRは県内・東海地区・北陸地区での活動を強化する必要がある。
②本庁所管課(観光課)	
	地域振興特別予算が平成26年度までの限定的制度であることから、今後、段階的に自己負担割合を増やしていき、地域で自主的に運営できるよう見直す必要がある。
地域政策課	
	合併前から実施している行事・イベントについては、今後の方向性について各事業の内容や地元負担割合等の精査を行うとともに、継続について、地域と十分協議する必要がある。来場者とその属性、交通・景観・環境・衛生面など様々な視点から事業の効果、改善点を検証する必要がある。

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	62199	せせらぎ街道キャンペーン推進事業負担金	担当課	清見支所 基盤産業課	内線	3231
予算	会計	1 一般会計	特別予算の位置付け	○ A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6 商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2 観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1 観光振興費		D	その他事業	
市長の約束	1	積極的な観光振興策を実施します。 ◎新たな観光資源を発掘し活用します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	清見町住民	受益者数	2,609 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	自然景観を維持し、せせらぎ街道を魅力あふれる街道として利用者の増を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	せせらぎ街道を愛する会を通じて、せせらぎ街道を利用してもらうためのキャンペーン・写真コンテスト・草刈・植樹等を郡上市と連携して実施する。		
	前回の評価からの改善・改革のポイント	飛騨美濃有料道路の無料化により、通行量の増加が見込めるため、積極的なPR・保全活動を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
① 事業実施数	算出根拠等	愛する会の事業実績	達成率(%)	100	100	100	-
			目標値	14	11	11	11
② せせらぎ街道入込客数	算出根拠等	バスカル・ウッドフォーラムの入込客	達成率(%)	95	105	100	-
			目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
① 入込客前年比	算出根拠等	バスカル・ウッドフォーラムの入込客	達成率(%)	97	111	101	-
			目標値	166,635	160,899	178,692	185,000
②	算出根拠等		達成率(%)				-
			目標値				
①	算出根拠等	受益者1件当たり(円)	達成率(%)	306	304	307	304
			目標値	306	304	307	304
②	算出根拠等	1事業当たり(千円)	達成率(%)	57	73	73	73
			目標値	57	73	73	73

コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	H21	H22	H23	H24
		決算額	決算見込額	予算額	実施計画額
	歳出(千円)	800	800	800	800
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)				
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				
	一般財源	800	800	800	800
コスト指標	指標名	H21	H22	H23見込	H24計画
	受益者1件当たり(円)	306	304	307	304
	受益者 清見町住民(4/1現在)	2,617	2,631	2,609	2,629
	1事業当たり(千円)	57	73	73	73
	算出根拠等	事業費/事業実施数			

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など	
	A(2)	B(1)			
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	自然景観を観光資源として活用するために、キャンペーン・維持・保全をおこなっており、市長の公約に結びつく。	
	B(1)	一部結びつく			
	C(0)	結びつかない			
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	A	せせらぎ街道利用者は年々増加しており、ニーズは非常に多い。	
	B(1)	ある程度のニーズがある			
	C(0)	少ない、減少している			
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	A	せせらぎ街道利用者は年々増加しており、事業効果は市民全体におよぶ。	
	B(1)	概ね市民全体におよぶ			
	C(0)	わずかな受益者に限定される			
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	昨年、岐阜県のじまんの原石に認定され、活動成果は概ね達成している。	
	B(1)	概ね達成している (75%以上)			
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)			
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	自然景観を維持・保全することは成果向上・目的達成のために有効である。	
	B(1)	概ね有効である			
	C(0)	見直しが必要である			
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	「お帰りはせせらぎ街道で」の横断幕を設置するなど新しい事業を取り入れ、改善・工夫に取り組んでいる。	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	昨年飛騨美濃有料道路の無料化により、岐阜県道路公社の負担金がなくなったため、事業の見直し等コスト削減に取り組んでいる。	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	A	せせらぎ街道PR事業及びクリーンアップ事業等の多さからみて適正である。	
	B(1)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	A	せせらぎ街道PR事業及びクリーンアップ事業等の多さからみて適正である。	
	B(2)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
合計		17.0 / 20.0	100点換算		85 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	H22年度岐阜県のじまんの原石に認定されたことから、今後は明日の宝物に認定されるよう郡上市と連携してせせらぎ街道の価値を高めていく。				

総合評価(二次評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	・民間(観光関係団体等)主体への移行を検討する必要がある。 ・特例期間終了を見据え、地域への波及効果などの分析を行いつつ、行政の関与を段階的に縮小していく必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	800	800	0	800	800
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	800	800	0	800	800

予算要求の概要	せせらぎ街道キャンペーン推進事業負担金
要求額増減理由	
①支所	せせらぎ街道が、平成23年2月に岐阜県のじまんの原石に認定され、今後は、郡上市との連携を強化し、岐阜県の宝ものに磨き上げる必要がある。
②本庁所管課(観光課)	滞在・周遊型観光を促進するために、郡上市との連携強化を図る必要がある。
地域政策課	
主催する民間の関連団体と、行政の役割分担を明確にする必要がある。	

財務部査定の考え方	要求どおり
市長査定の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	31399	地域老人福祉推進事業費 (老人クラブ活動費助成事業)	内線	3222	
事業種別	31399	地域老人福祉推進事業費 (老人クラブ活動費助成事業)	清見支所 地域振興課		
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	3 民生費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	1 社会福祉費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	3 老人福祉費		D	その他事業
市長の約束	5	医療・福祉を充実させます。 地域住民が互いに支えあう仕組みや、緊急時の支援を万全にするため、独居老人、要援護者等への地域福祉体制を整備します。			

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	60歳以上の市民で構成される単位老人クラブ及び連合組織	受益者数	9,796 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	明るい長寿社会と豊かな老後を目指す。		
概要	事業の実施手法(手段)	高齢者の生きがいと健康づくり、また高齢社会を支える上で大きな役割を担っている老人クラブに対し、福祉の向上のために助成し、老人クラブを通じて各種活動の育成、支援を行う。		
概要	前回の評価からの改善・改革のポイント	老人クラブに加入しやすい体制の構築に向け、組織や活動の見直しを促しており、役員会等で検討中である。		

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
① 会員数	算出根拠等	人	目標値	11,474	10,500	11,100	11,600
			実績値	11,474	10,405	9,796	-
算出根拠等			実績値/目標値	達成率(%)	100	99	88
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
② 単位老人クラブ数	算出根拠等	人	目標値	159	150	150	143
			実績値	159	150	143	-
算出根拠等			実績値/目標値	達成率(%)	100	100	95
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)	歳出(千円)	(A)	H21	H22	H23	H24
				決算額	決算見込額	予算額	実施計画額
歳出(千円)				420	420	420	420
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)	171	163	280	280		
	一般財源	249	257	140	140		
コスト指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
①	受益者1件当たり(円)	(A/B)	目標値	553	553	568	575
			実績値	760	760	739	730
算出根拠等			達成率(%)				

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2) 結びつく	A	総合計画・市長公約に位置付けられ、高齢者を中心に地域住民が互いに支えあう仕組みとして、老人クラブの活動は、地域福祉体制づくりの一つであり、有意義な政策である。
	B(1) 一部結びつく		
	C(0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2) 非常に多い、急増している	A	高齢者の方が健康でいきいきとした生活を送るために老人クラブ活動は重要な施策であり、老人クラブからの補助金の増額について、強い要望もある。
	B(1) ある程度のニーズがある		
	C(0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2) 市民全体におよぶ	B	健康で活躍する高齢者が増加することにより、地域の活性化につながる。
	B(1) 概ね市民全体におよぶ		
	C(0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2) 十分に達成している (100%以上)	B	近年の老人クラブ加入者の減少は、高齢者の趣味や考えの多様化したことによるものである。
	B(1) 概ね達成している (75%以上)		
	C(0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2) 有効である	B	高齢者が主体となって健康づくりや地域交流などの自主的な運営を支援している。
	B(1) 概ね有効である		
	C(0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2) 課題はない・解消されている	B	役員会等により、組織や活動の見直しに取り組んでいる。
	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2) 課題はない・解消されている	A	補助金の額は、会員数及び単位老人クラブ数により、算出するため。
	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2) 適正である	A	補助金の額は、会員数及び単位老人クラブ数により、算出するため。
	B(1) 概ね適正である		
	C(0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4) 適正である	A	補助金の額は、会員数及び単位老人クラブ数により、算出するため。
	B(2) 概ね適正である		
	C(0) 改善が必要である		
合計		16.0 / 20.0	100点換算 → 80 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	<ul style="list-style-type: none"> 本補助金を有効に活用するため、老人クラブにおける活動内容の見直しを進めながら、事業継続し、活動の育成と支援を行う。 地域振興特別予算(31399事業)の老人クラブ活動費補助金の一本化を図る。 				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年度事業評価において、老人クラブ(連合長寿会)の加入率は低下していることから、長寿会に加入しやすい体制の構築を促すなどの取組みが必要であるとの指摘をしているところであるが、連合長寿会に加盟しない地区もあり、事業効果が高齢者全体に及んでいないようになってきていることから、地域としての必要性も含め、今後のあり方についても検討する必要がある。 				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	420	420	0	420	420
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金	280	280	0	280	280
起債					
その他					
地域振興特別予算	140	140	0	140	140

予算要求の概要	長寿会事務局設置に係る助成経費
要求額増減理由	
①支所	地域を基盤とした老後の社会活動の円滑な展開とまちづくりへの高齢者の参画を支援し、老人クラブの活動をより一層充実した取組みにするため、一般予算(31336事業 老人クラブ活動費補助金)へ移行する必要がある。
②本庁所管課(高年介護課)	地域を基盤とした老後の社会活動の円滑な展開とまちづくりへの高齢者の参画を支援し、老人クラブの活動をより一層充実した取組みにするため、一般予算(31336事業 老人クラブ活動費補助金)へ移行する必要がある。
地域政策課	
支所地域の老人クラブへの補助は人件費を補助対象としているため、早急に高山地域と同条件となるよう調整し、一般予算化の検討が必要である。	

財務部査定の考え方	要求どおり
市長査定の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	72199	市道未登記用地測量事業	担当課	清見支所 基盤産業課	内線	3231
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	7 土木費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2 道路橋りょう費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1 道路橋りょう総務費		D	その他事業	
市長の約束	4	個人・家庭・地域を大切に作る社会を築きます ・地域住民が自らの地域を改善、振興する活動を支援するため地域振興特別予算を全市域に拡大し権限と予算の地域移譲を図ります。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市道内に残る民地の地権者	受益者数	158人
	どういう状態にしたいのか(意図)	市道の未登記路線の整理により、所有権主張によるトラブルを解消し、適正な道路管理を行う。		
概要	事業の実施手法(手段)	市道未登記箇所の確定測量を行い登記関係書類を作成し、所有者からの寄付により道路用地として高山市へ所有権移転登記を行う。		
	前回の評価からの改善・改革のポイント	地権者の同意が得られないため、登記が進まない。事業の性質からも、根気に誠意をもって交渉を重ね同意を得る方向で取り組む。		

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
① 対象路線数	算出根拠等	重要路線数	達成率(%)	33	17	20	-
			目標値	6	2	2	
②	算出根拠等	重要路線数	達成率(%)				
			目標値				
① 使用承諾済筆数	算出根拠等	使用承諾実績	達成率(%)	68	23	19	-
			目標値	300	96	74	60
② 登記済筆数	算出根拠等	登記済実績	達成率(%)	25	10	15	-
			目標値	300	226	204	174
①	算出根拠等	受益者1人あたり(円)	目標値	113,203	204,576	333,333	266,667
			実績値	79	33	30	30
②	算出根拠等	使用承諾済人数	目標値	121	307	333	
			実績値				

コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	歳出(千円)	H21	H22	H23	H24
			決算額	決算見込額	予算額	実施計画額
①	受益者負担(使用料・負担金等)	(A)	8,943	6,751	10,000	8,000
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
②	一般財源	(B)	8,943	6,751	10,000	8,000
	その他特定財源					

3 分析・評価(Check)

必要性	評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
		A(2)	B(1)		
①	事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	道路管理者として適正管理により、安全な交通を確保する観点からも市長の公約に結びつく。
		B(1)	一部結びつく		
		C(0)	結びつかない		
②	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	・市道未登記箇所の所有者は限られているが市道の利用者を考えた場合、トラブル発生前に整理する事である程度ニーズがある。
		B(1)	ある程度のニーズがある		
		C(0)	少ない、減少している		
③	事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	・市道敷内の土地所有権を主張されるトラブル発生を未然に防ぎ、道路管理者として適正な管理を行うことで道路利用者(市民)の安全を図ることが出来る。
		B(1)	概ね市民全体におよぶ		
		C(0)	わずかな受益者に限定される		
④	事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	C	地権者の同意が得られずあまり順調でない。
		B(1)	概ね達成している (75%以上)		
		C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤	成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	・用地境界の参考とするため、各機関と協議し資料提供してもらう事で立会時間の短縮が図られ有効である。
		B(1)	概ね有効である		
		C(0)	見直しが必要である		
⑥	事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	・事業実施前には、関係者に対し説明会等を開催し、地権者の理解を得たのち、業務遂行している。
		B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
		C(0)	対応していない		
⑦	コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	・市道未登記の再調査を実施し、当初路線数の見直しを行う。
		B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
		C(0)	対応していない		
⑧	受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	A	・山林等の広大地があると、面積が大きくなりコストは上がるが、平野部の道路に関しては単価が決まっているため適正である。
		B(1)	概ね適正である		
		C(0)	改善が必要である		
⑨	成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	A	・投入コストに見合った成果は上がっている。 ・調査、測量、申請手続き等は単価契約によって実施し業務の効率化を図っているが、地元調整等は第三者が行うと不信感を与えるため市職員が対応すべきである。
		B(2)	概ね適正である		
		C(0)	改善が必要である		
合計		14.0 / 20.0		100点換算 → 70 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ 完了
	・未登記路線の精査をするとともに、現在進めている路線の早期登記完了を目指す。				
総合評価(二次評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ 完了
	・H26までに重要路線の未登記処理を解消できるよう取り組んでいく必要がある。				
議会からの提言等					

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	10,000	8,000	△ 2,000	8,000	8,000
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	10,000	8,000	△ 2,000	8,000	8,000

予算要求の概要	市道未登記用地の調査、測量、登記に要する費用
要求額増減理由	事業量をH25年度と年度間調整したため
①支所	未登記路線を計画的に整備しているが、地権者の権利関係が複雑となり処理に時間を要する
②本庁所管課(維持課)	市道未登記路線の処理については、年次計画に基づき積極的に業務委託を発注し未登記路線の解消に努める必要がある
地域政策課	
地域振興特別予算措置期間に完了する必要がある。	

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	94199	花づくり推進事業	担当課	清見支所 地域振興課	内線	3210
予算	会計	1 一般会計	特別予算の位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		O	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4 社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1 社会教育総務費		D	その他事業	
市長の約束	4	個人・家族・地域を大切にすることを築きます ・市民が幸せな家庭生活を送り、安心して暮らせる地域を築くため、地域の自主的なコミュニティ活動や環境整備事業の予算枠を確保します。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	清見町住民	受益者数	2,609 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	地域内の花壇管理を、地域ぐるみで取り組み、地域全体のイメージアップと地域の絆を深める		
概要	事業の実施手法(手段)	・町内会単位で、花壇の植栽及び管理を行う。 主幹線道路にも地域住民に協力願って育成管理を行ってもらう		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 花苗の配布	算出根拠等	13地区	本	目標値	70,000	62,500	62,500
実績値					70,000	62,500	62,500	62,500
達成率(%)				100	100	100	-	
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	② 花壇面積	算出根拠等	13地区計測	m ²	目標値	1,875	1,875	1,875
実績値					1,875	1,875	1,875	-
達成率(%)				100	100	100	-	
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 参加世帯数	算出根拠等	4. 1現在世帯数	戸	目標値	820	810	810
実績値					815	805	805	-
達成率(%)				99	99	99	-	
コスト指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	②	算出根拠等			目標値			
実績値								-
達成率(%)							-	
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)(A)				3,400	3,083	3,400	2,900
	受益者負担(使用料・負担金等)							
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
	一般財源				3,400	3,083	3,400	2,900
コスト指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	①	受益者1件当たり(円)(A/B)		目標値	1,299	1,172	1,303	1,112
				実績値	2,617	2,631	2,609	2,609
	②	受益者	清見町住民(4月1日現在)(B)	目標値				
実績値								
算出根拠等								

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A (2) 結びつく	A	地域の自主的なコミュニティ活動としては定着しており高齢者から児童まで幅広く参加できる事業である
	B (1) 一部結びつく		
	C (0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A (2) 非常に多い、急増している	B	自主的に地域活動に参加する感覚が薄れてきた昨今において、継続することが困難となりつつある
	B (1) ある程度のニーズがある		
	C (0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A (2) 市民全体におよぶ	A	地域内の環境が整備され地域全体のイメージアップにつながる
	B (1) 概ね市民全体におよぶ		
	C (0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A (2) 十分に達成している (100%以上)	A	地域ごとに数量を募り、必要苗数を提供している
	B (1) 概ね達成している (75%以上)		
	C (0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A (2) 有効である	C	国・県道沿線は規模が大きくボランティアとしての実施は困難と考えるが、それ以外の地区花壇へも管理費等を支払っているが、今後はその部分は地域の自主的な活動へ移行するよう見直しが必要である
	B (1) 概ね有効である		
	C (0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A (2) 課題はない・解消されている	B	国・県道沿線のロード花壇の対応について検討しているが、調整が進まない状況である
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A (2) 課題はない・解消されている	B	現在は、管理費等を支払っているが、今後は地域の自主的な活動へ移行するよう見直しが必要である
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A (2) 適正である	B	国・県道沿線は規模が大きくボランティアとしての実施は困難と考える。しかし幹線道路以外の地区花壇については、地域のボランティア活動として委ね、管理費のコスト減を図りたい。
	B (1) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A (4) 適正である	A	面積及び花苗により算出して適正である
	B (2) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
合計		14.0 / 20.0	100点換算 → 70 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	幹線道路沿線のロード花壇については、人口減少や高齢化などにより地域ボランティアでの管理は困難な状況である。今後は管理作業縮小のため、多年草を取り入れるなど住民への負担軽減等の工夫が必要である。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	「花いっぱい運動」に対しては、当該地域振興予算のほか、一般予算による補助金(市民憲章推進事業補助金、特色ある地区活動事業補助金等)が直接・間接に助成されており、地域振興特別予算の終期も踏まえた助成のあり方を再検討するとともに、事業費規模などについても検討する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	3,400	2,900	△ 500	2,900	2,900
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	3,400	2,900	△ 500	2,900	2,900

予算要求の概要	花苗購入、花壇管理委託
要求額増減理由	管理委託料の減
①支所	
地区における花いっぱい運動の継続、管理方法等の見直し	
②本庁所管課(市民活動推進課)	
地域社会教育推進事業は、花いっぱい運動に係る経費として全支所地域において地域振興特別予算に計上されており、管理委託や花苗等の配付等、地域によって異なっている。現在、市民憲章推進協議会が実施している花いっぱい運動に対する助成等類似事業との関係を整理しているところであり、当面、当該事業を継続するなかで、事業のあり方や一般予算との関係等を整理する必要がある。	
地域政策課	
同上	

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	94699	生涯学習作品展及び 芸能発表会助成事業	担当課	清見支所 地域振興課	内線	3210
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け の 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4 社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	6 文化振興費		D	その他事業	
市長の約束	4	個人・家庭・地域を大切にすることを築きます ・地域住民が自らの地域を改善、振興する活動を支援するための地域振興特別予算を全市域に拡大し権限と予算の地域移譲を図ります。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	清見町住民	受益者数	2,609 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	地域に根ざした芸能文化の振興を図ることを目的に、発表の場の提供により活動意欲を高め、世代を交えた多くの住民の交流と文化意識を向上させる		
概要	事業の実施手法(手段)	清見地区社会教育推進委員会が実施する地域文化振興事業への助成 公民館活動団体や小中学生などの作品展示会の開催		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	算出根拠等	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
					目標値	実績値	達成率(%)	
① 作品出展項目	生涯学習作品展	作品	作品	目標値	7	7	7	7
				実績値	7	7	7	7
② 出演団体数	芸能発表会	団体	団体	目標値	10	10	10	10
				実績値	9	10	10	-
① 作品出展人数	生涯学習作品展	人	人	目標値	470	470	470	470
				実績値	465	430	470	-
② 出演人数	芸能発表会	人	人	目標値	150	150	150	150
				実績値	119	133	150	-

コスト面	算出根拠等	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
					目標値	実績値	達成率(%)	
① 受益者1件当たり(円)	作品展、発表会各1回当たり	(A/B)	(A/B)	目標値	1,969	2,487	2,419	2,177
				実績値	584	563	620	620
② 作品展、発表会各1回当たり(千円)	作品展、発表会各1回当たり	(B)	(B)	目標値	575	700	750	750
				実績値	575	700	750	750

コスト面	算出根拠等	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	H21	H22	H23	H24
			決算額	決算見込額	予算額	実施計画額
財源内訳	歳出(千円)	(A)	1,150	1,400	1,500	1,350
		受益者負担(使用料・負担金等)	0	0	0	0
コスト面	算出根拠等	その他特定財源(国・県支出金・起債等)	0	0	0	0
		一般財源	1,150	1,400	1,500	1,350

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準			評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)	C(0)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく		A	・地域振興特別予算の位置づけであり、目標達成に結びつく。
	B(1)	一部結びつく			
	C(0)	結びつかない			
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している		B	芸能活動の発表の機会があることにより、活動意欲や、文化意識の向上につながり、住民の交流も深まる
	B(1)	ある程度のニーズがある			
	C(0)	少ない、減少している			
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ		B	文化活動が主流ではあるが、年齢的にも幅広く地域ぐるみの事業である
	B(1)	概ね市民全体におよぶ			
	C(0)	わずかな受益者に限定される			
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)		B	・年間事業計画に基づく展示会、発表会を開催しているが、年々出演者等の減少傾向が見られ次世代への継続は課題である。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)			
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)			
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である		A	社会教育推進委員会が主体となり実施しており、準備段階から地域住民の協働による開催で地域力向上の一端として有効である。
	B(1)	概ね有効である			
	C(0)	見直しが必要である			
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている		B	作品展の出展者、発表会の出演者の高齢化により年々参加者が減っているため、新たに発掘する必要がある。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている		B	展示方法の改善や出演者の選考など改善・工夫に取り組んでいる。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である		B	今後も経費削減に取り組むことが必要であり、受益者1人当たりのコストは適正である。
	B(1)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である		A	地区社会教育推進委員会への委託業務として人件費も含め、今後もその方向で行う。機械借上など器具等の支出については今後も必要と考える。
	B(2)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
合計				14.0 / 20.0	100点換算 → 70 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	○	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	地区社教により目的に沿った事業として行われているが、年々出演者等の減少や偏りがみられ、社教の取り組みや運営方法と併せて見直しが必要と思われる。 また会場設営等の準備が、高齢化等により年々困難になっており、次世代育成が課題である。					

総合評価(二次評価)	維持・改善	拡大	○	縮小	廃止の検討	完了
	・全体的なバランスのなかから、地域振興特別予算の終期も踏まえた助成のあり方の再検討や事業費規模などについて、検討する必要がある。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。					

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	1,500	1,350	△ 150	1,350	1,350
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	1,500	1,350	△ 150	1,350	1,350

予算要求の概要	生涯学習作品展・芸能発表会の開催に対する助成
要求額増減理由	事業内容の見直し
①支所	運営方法の見直しや少子高齢化に伴う後継者育成などを検討する必要がある。
②本庁所管課(生涯学習課)	地域文化振興事業は、地域の公民館等において開催される文化祭・芸能祭、文化講演会等に対する助成として全支所地域において地域振興特別予算に計上されているが、地域によって、内容・実施主体・助成割合等が異なっているため、一定のルール化について検討する必要がある。 また、文化芸術鑑賞事業等一般予算で行っている文化振興事業と地域文化振興事業との関係についても整理する必要がある。
地域政策課	
同上	

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	94799	ひねりの舞、伊勢神楽保存事業補助	担当課	清見支所 地域振興課	内線	3210
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4 社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	7 文化財費		D	その他事業	
市長の約束	9	伝統文化を守り、次代へ継承します ・美しいふるさとの伝統文化を守り、次代に継承します				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	清見町上小鳥保存会及び牧ヶ洞保存会住民	受益者数	767 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	無形民俗文化財の保存と伝承者の育成を行うことにより、伝統芸能の保存と伝承を推進する。		
概要	事業の実施手法(手段)	市指定無形文化財となっている「ひねりの舞」と「伊勢神楽」の保存と後継者育成を行っている2つの団体に対し、活動費を助成する。		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
① 伊勢神楽・ひねりの舞の開催	算出根拠等	回	目標値	2	2	2	2
			実績値	1	1	1	-
算出根拠等			達成率(%)	50	50	50	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
① 保存会会員数	算出根拠等	人	目標値	247	245	245	245
			実績値	247	245	245	-
算出根拠等			達成率(%)	100	100	100	-
コスト面	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
① 受益者1件当たり(円)	算出根拠等	(A/B)	目標値	117	117	117	117
			実績値	767	767	767	767
② 1団体補助金(千円)	算出根拠等	(B)	目標値	45	45	45	45
			実績値	45	45	45	45
算出根拠等			達成率(%)				

コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	H21	H22	H23	H24
		決算額	決算見込額	予算額	実施計画額
	歳出(千円)	(A) 90	90	90	90
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)				
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				
	一般財源	90	90	90	90

コスト面	指標名	H21	H22	H23見込	H24計画		
		① 受益者1件当たり(円)	(A/B)	117	117	117	117
	受益者	清見町牧ヶ洞・上小鳥地区住民	(B)	767	767	767	767
	② 1団体補助金(千円)		45	45	45	45	
算出根拠等		団体数/事業費					

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A (2) 結びつく	A	・総合計画の「ゆたかさ」あるまちをめざしてのうち、郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝える活動として、伝承芸能を継承できる後継者の育成に結びつく。
	B (1) 一部結びつく		
	C (0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A (2) 非常に多い、急増している	A	・伝統的及び貴重な無形文化財であることから、今後も継承し、続けていきたいニーズは大きい。
	B (1) ある程度のニーズがある		
	C (0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A (2) 市民全体におよぶ	C	・各神社の無形文化財であることから、受益者に限定されてしまう。
	B (1) 概ね市民全体におよぶ		
	C (0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A (2) 十分に達成している (100%以上)	A	・伊勢神楽は毎年、ひねりの舞は7年に一度の開催であるが、継続して行われてきている。
	B (1) 概ね達成している (75%以上)		
	C (0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A (2) 有効である	A	・毎年及び7年毎に継続して継承開催できていることから有効である。
	B (1) 概ね有効である		
	C (0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A (2) 課題はない・解消されている	B	・新たな後継者の発掘や、今後の継承に関し検討を行なっている。
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A (2) 課題はない・解消されている	B	・貴重で特殊な衣装や器具が必要なものであるため、削減は難しいものの、少ない費用の中で維持している。
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A (2) 適正である	B	・事業の性格から適正である。
	B (1) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A (4) 適正である	A	・事業の性格から適正である。
	B (2) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
合計	15.0 / 20.0	100点換算	75 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	上小鳥地区は人口減少や高齢化が進み伝統行事の継承が困難な状況である。補助金の継続はもとより、市としての支援が必要である。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	90	90	0	90	90
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	90	90	0	90	90

予算要求の概要	市無形文化財の保存と後継者育成のため、その活動費や衣装・道具の購入及び修繕のための助成
要求額増減理由	

①支所	伝統芸能の保存と伝承を推進するため、今後も継続的な支援が必要である。
②本庁所管課(文化財課)	・民謡などの地域芸能の伝承、後継者の育成は継続的に行うことが大切である。今後も計画的な支援が必要である。
地域政策課	地域振興特別予算措置期間終了後を見据えた方針の策定が必要である。

財務部査定 の考え方	要求どおり
---------------	-------

市長査定 の考え方	財務部調整どおり
--------------	----------

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	94799	天然記念物環境保全事業	担当課	清見支所 地域振興課	内線	3210
予算	会計	1 一般会計	特別予算の位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4 社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	7 文化財費		D	その他事業	
市長の約束	8	豊かな自然環境を守り、環境モデル都市をつくります。 ◎環境教育を推進します 環境保全の重要性を理解し、みんなでより良い環境を創り上げ、次世代に残すことは私たちの使命であるため、将来を見据えた長期的な周知啓発運動の展開に加え、市内の全ての学校で環境教育を推進します。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	清見町住民及び観光客	受益者数	2,609 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	市指定天然記念物「小鳥峠ミズバショウを含む湿原植生群生地」の環境保全対策を、地域参加型で実施する。		
概要	事業の実施手法(手段)	獣害(イノシシ)対策として電気柵を設置する。湿原植物保護に関する現地調査を実施する。		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
	① 電気柵設置延長			m	目標値			740	1,090
			実績値			740	-		
算出根拠等				達成率(%)			100	-	
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
	② ミズバショウ保護活動回数			回	目標値	4	4	5	10
			実績値	4	4	5	-		
算出根拠等	住民ボランティア+委託事業者実施回数		達成率(%)	100	100	100	-	-	
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
	① 電気柵設置面積			ha	目標値			1.8	2.4
			実績値			1.8	-		
算出根拠等				達成率(%)			100	-	
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額			
	歳出(千円)		(A) 148	177	1,100	1,417			
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)								
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)								
コスト指標	一般財源		148	177	1,100	1,417			
	指標名		H21	H22	H23見込	H24計画			
①	受益者1件当たり(円)	(A/B)	57	67	422	543			
	受益者	清見町住民(4月1日現在)(B)	2,617	2,631	2,609	2,609			
②									
算出根拠等									

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2) 結びつく	A	総合計画の「ゆたかさ」のあるまちをめざしてのうち、恵まれた自然を守り生かすため、自然環境の保全として自然保護団体などと連携して保護保存活動を進めていることに結びつく。
	B(1) 一部結びつく		
	C(0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2) 非常に多い、急増している	A	・周辺環境の変化に伴い、近年減少傾向であるが、特に獣害は顕著でありこのままでは全滅の可能性もあり得るため、多くの住民が保全を望んでいる。
	B(1) ある程度のニーズがある		
	C(0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2) 市民全体におよぶ	B	・市有地に天然記念物が自生しており、ミズバショウ群生地は希少であり、市民全体の財産である。シーズン中は、観光客も年々増加し癒しの自然空間として人気である。
	B(1) 概ね市民全体におよぶ		
	C(0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2) 十分に達成している (100%以上)	A	・電機柵設置後、イノシシの被害が生じたが、電機柵により柵内のミズバショウは守られた。
	B(1) 概ね達成している (75%以上)		
	C(0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2) 有効である	A	・オオハンゴンソウの増加を防ぎ、電機柵により獣害の被害を防ぐことが出来ることから有効である。
	B(1) 概ね有効である		
	C(0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2) 課題はない・解消されている	B	・夜間の出没であったため、電機柵により柵内のミズバショウは守られたが、夕暮れ夜明け時間帯の対策として、センサーの反応時間を長くするため、木箱で囲うこととした。 ・オオハンゴンソウについては、検討しなければならない。
	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2) 課題はない・解消されている	B	本年度の電機柵は試験的に実施したものであり、廃材の有効利用も行うなどコスト削減を行った。
	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2) 適正である	B	・電機柵については今年度初めて設置したもので、初期投資により増加しているが、最低限の工夫で実施し、設置にあたっては地域の協力ももっている。
	B(1) 概ね適正である		
	C(0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4) 適正である	A	電機柵により柵内にイノシシが入らずミズバショウが保護されたことは設置効果がでた。地域の協力もあり人件費の削減がされ適正に事業遂行している。
	B(2) 概ね適正である		
	C(0) 改善が必要である		
合計	16.0 / 20.0	100点換算	80 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	オオハンゴンソウの除去方法を検討し、今後も継続して完全除去に向け進めていく。また、電柵設置範囲を広げ、ミズバショウ等の個体の確保を継続し、その他の環境整備等による保護対策を検討する。				

総合評価(二次評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	・価値を再検証する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	1,100	1,417	317	1,430	1,430
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	1,100	1,417	317	1,430	1,430

予算要求の概要	小鳥湿原の獣害対策および特定外来生物除去にかかる経費 湿地の乾燥化を抑制するための堰堤設置工事費
要求額増減理由	電機柵の設置面積増に伴う委託料の増 堰堤設置工事による工事費の増
①支所	天然記念物保護の対策は単年度で結果が現れるものではないことから、保護対策を継続し地域住民の保護活動と連携して取り組んでいく体制づくりが必要である。
②本庁所管課(文化財課)	・天然記念物の保護、育成は継続的に行うことが大切である。今後も地域と連携し計画的な事業実施が必要である。
地域政策課	23年度調査結果を活かした取り組みとした上で、事業効果の詳細な分析と今後の対応の検討が必要である。

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	95199	地域スポーツ振興事業	担当課	清見支所 地域振興課	内線	3210
予算	会計	1 一般会計	特別予算の位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		O	B 一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	5 保健体育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1 体育総務費		D	その他事業	
市長の約束	4	個人・家庭・地域を大切にすることを築きます ・地域住民が自らの地域を改善、振興する活動を支援するための地域振興特別予算を全市域に拡大し権限と予算の地域移譲を図ります。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	清見町住民	受益者数	2,609 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	・スポーツ大会等を通じて老若男女を問わず地域住民のつながりと交流を深める。		
概要	事業の実施手法(手段)	清見地区社会教育推進委員会が実施する体育振興事業への助成		
概要	前回の評価からの改善・改革のポイント	幅広い参加種目の選定		

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	① 大会数	算出根拠等	スポーツ大会等の開催数	達成率(%)	H21	H22	H23見込	H24計画
					8	8	8	-
成果面	②	算出根拠等	達成率(%)	-				
成果指標	① 参加人数	算出根拠等	スポーツ大会等の参加数	達成率(%)	H21	H22	H23見込	H24計画
					800	800	800	800
成果指標	②	算出根拠等	達成率(%)	-				
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額	
	歳出(千円)			(A) 380	380	380	380	
	受益者負担(使用料・負担金等)			0	0	0	0	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			0	0	0	0	
	一般財源			380	380	380	380	
コスト指標	指標名			H21	H22	H23見込	H24計画	
	①	受益者1件当たり(円)	(A/B)	510	523	528	475	
				受益者	大会参加者	(B)	745	726
	②	スポーツ大会等1回当たり(千円)		47	47	47	47	
算出根拠等				スポーツ大会等開催経費/開催回数				

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A (2) 結びつく	A	・地域振興特別予算の位置づけであり、目標達成に結びつく。
	B (1) 一部結びつく		
	C (0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A (2) 非常に多い、急増している	B	年間を通じて様々なスポーツ大会等を開催しており地域住民のニーズは高い。
	B (1) ある程度のニーズがある		
	C (0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A (2) 市民全体におよぶ	B	地域内全市民対象に募集を行い、参加者及び家族の応援による絆も深まる
	B (1) 概ね市民全体におよぶ		
	C (0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A (2) 十分に達成している (100%以上)	A	・年間事業計画に基づくスポーツ大会等を開催しており十分に達成している。
	B (1) 概ね達成している (75%以上)		
	C (0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A (2) 有効である	A	・それぞれのスポーツ大会等を通じて地域住民のつながりと交流の場として有効である。
	B (1) 概ね有効である		
	C (0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消・前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A (2) 課題はない・解消されている	B	・スポーツ大会等の参加者は毎年ほぼ同様であり、新たに発掘する必要がある。
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A (2) 課題はない・解消されている	A	・開催方法の改善や参加者の条件など改善・工夫に取り組んでいる。
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A (2) 適正である	A	・主催者側の支出もあり、受益者1人当たりのコストは適正である。
	B (1) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A (4) 適正である	A	・地域住民の協力体制による運営や経費の削減に努めながら事業の実施をしており適正である。
	B (2) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
合計		17.0 / 20.0	100点換算 → 85 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止の検討	<input type="checkbox"/> 完了
	地区社教の活動全般について検討しつつ、地域活性化のためには引き続き助成が必要と考える。				

総合評価(二次評価)	<input type="checkbox"/> 維持・改善	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止の検討	<input type="checkbox"/> 完了
	・地域の自主的な活動とすべく、負担金の段階的な引き下げを行う必要がある。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	380	380	0	380	380
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	380	380	0	380	380

予算要求の概要	地域スポーツ大会の開催に対する助成
要求額増減理由	
①支所	地域内全体の事業として地域活力向上の効果は高い。世代交代による参加人数の減少が見受けられるので、実施種目の検討や大会参加人数増加への取組みが必要である。
②本庁所管課(スポーツ振興課)	地域スポーツ振興事業は、地域の特性に応じた各種大会の開催や地域におけるスポーツ活動の推進等に対する助成として全支所地域において地域振興特別予算に計上されている。現在、一般予算の中で地域におけるスポーツ教室の開催方法やスポーツイベントのあり方等について検討しているところであり、当面、当該事業を継続する中で、事業のあり方や一般予算との関係等を整理する必要がある。
地域政策課	
同上	

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	20899	旧清見公民館解体事業	担当課	清見支所 地域振興課	内線	3211
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2 総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1 総務管理費		O	C 終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	8 財産管理費		D	その他事業	
市長の約束	10	市民のための行政改革を断行します ◎将来を見据えて今必要な行政改革をすぐに断行します ・市の施設や支所の改修利用を進めるほか、遊休施設・土地などの有効活用を行います。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民(清見地域)	受益者数	2,609 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	老朽化等により利用目的がない旧清見公民館施設を解体処分し、跡地を多目的スペースとして整備し利用を図る。当面は、現在課題となっている中学校前の退避所スペースへの駐車を増やすため、中学校施設利用者等の駐車場等としての利用を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	平成24年度 旧清見公民館建物解体工事(鉄筋コンクリート造/3階建/延べ面積977㎡)敷地造成工事		
	前回の評価からの改善・改革のポイント			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 旧清見公民館施設解体処分	算出根拠等	延べ面積	㎡	目標値			
				実績値				
	算出根拠等	延べ面積		達成率(%)				-
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	② 解体後の敷地面積	算出根拠等	延べ面積	㎡	目標値			
				実績値				
	算出根拠等	延べ面積		達成率(%)				-
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 解体敷地の駐車場収容台数	算出根拠等	延べ面積	台	目標値			
				実績値				
	算出根拠等	延べ面積		達成率(%)				-
コスト面	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 受益者1件当たり(円)	算出根拠等	延べ面積	(A/B)				
				(B)				
	算出根拠等	延べ面積		達成率(%)				-
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額		
	歳出(千円)		(A)				23,000	
コスト面	指標名		H21	H22	H23見込	H24計画		
	受益者負担(使用料・負担金等)							
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
	一般財源					23,000		

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A (2) 結びつく	A	第7次総合計画において、平成18年度、19年度に実施することになっている。
	B (1) 一部結びつく		
	C (0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A (2) 非常に多い、急増している	A	学校行事、学校施設開放で来校する市民等の駐車場の要望がある。現在、近隣事業者の職員駐車場として貸付けている
	B (1) ある程度のニーズがある		
	C (0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A (2) 市民全体におよぶ	A	清見地域の市民に限らず、学校施設開放など広範囲の市民全体が利用する。
	B (1) 概ね市民全体におよぶ		
	C (0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A (2) 十分に達成している (100%以上)	評価対象外	平成24年度新規事業のため
	B (1) 概ね達成している (75%以上)		
	C (0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A (2) 有効である	評価対象外	平成24年度新規事業のため
	B (1) 概ね有効である		
	C (0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A (2) 課題はない・解消されている	評価対象外	平成24年度新規事業のため
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A (2) 課題はない・解消されている	評価対象外	平成24年度新規事業のため
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A (2) 適正である	評価対象外	平成24年度新規事業のため
	B (1) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A (4) 適正である	評価対象外	平成24年度新規事業のため
	B (2) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
合計	6.0 / 6.0	100点換算	100 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	旧清見公民館敷地の有効利用を検討する。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	0	23,181	23,181	23,000	23,000
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	0	23,181	23,181	23,000	23,000

予算要求の概要	解体にかかる設計及び工事費
要求額増減理由	新規事業のため
①支所	
	跡地の利活用については、住民・地域審議会の意見をふまえ、各関係課等と連携して検討する必要がある。
②本庁所管課(管財課)	
	解体後の敷地の活用方法については売却処分を基本としているが、現在の使用状況、周辺の状況などを総合的に検証し、最も有効な活用方法を検討し関係課と調整する必要がある。
地域政策課	
	解体後の土地の売却を含めた跡地利用の検討が必要である。

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	20999	地域おこし協力員活用事業	担当課	清見支所 地域振興課	内線	3210
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2 総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1 総務管理費		O	C 終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	9 企画費		D	その他事業	
市長の約束	4	合併のメリットを活かしつつ、それぞれの地域の特性を伸ばします ・地域の個性あるまちづくりと、市域の一体感を創るため、地域が手を取り合って取り組む活動に支援します。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	清見町大原地域の住民	受益者数	90 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	地域力の維持、強化をはかり、地域の担い手となり地域活性化を図る		
概要	事業の実施手法(手段)	大原地域に、地域おこし協力員(1名)を委嘱し、住民と協働で地域力の維持・強化に資する		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
①	地域おこし協力員(1人)	人	目標値	0	0	1	1
			実績値	0	0	1	-
算出根拠等	1人委嘱		達成率(%)			100	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
①	地域おこし協力員委嘱による活動月数	月	目標値	0	0	12	12
			実績値	0	0	11	-
算出根拠等	採用月実績		達成率(%)			92	-
②	受入団体における利用者数	人	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
算出根拠等	宿泊+日帰りの施設利用者		達成率(%)	95	83	95	-

コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	H21	H22	H23	H24	
		決算額	決算見込額	予算額	実施計画額	
	歳出(千円)	(A) 0	0	3,500	2,700	
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)			0	0	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			0	0	
	一般財源			3,500	2,700	
コスト指標	指標名	単位	H21	H22	H23見込	H24計画
算出根拠等	受益者1件当たり(円)	(A/B)			38,889	30,000
	受益者	大原地区住民(4月1日)	(B)		90	90

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	地域で活動する団体と協働で、外部からの視点を活かした地域力の維持と強化を支援する人材を提供することにより、自主性を活かしたまちづくりをめざす
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	A	人口減少により地域活動が困難となりつつある清見町の他地域からも、要請がある
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	C	今年度計画では、清見町大原地域に限定されている
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	評価対象外	「H23新規事業のため」受け入れ団体の活動を通して、徐々に地域との信頼関係も築きつつあり、3年計画としての成果は順調である
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	地域団体の活動を通して、体験の中から地域に浸透しており、住民のニーズにあった活動を実践している
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	清見町全体を活動拠点と出来れば、もっと有効に活用できると思われるため、今後他地域での活用も検討していく
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	A	最低限必要な経費のみである
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	A	受益者は限られた人数である
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	A	投入コストに見合った成果ははている
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		15.0 / 18.0	100点換算	83 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	清見町大原地域を活動拠点としているが、清見町全体を活動範囲とし地域おこし協力員としての活動を展開する				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	(担当課評価に同じ)				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	3,500	2,700	△ 800	2,880	2,880
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	3,500	2,700	△ 800	2,880	2,880

予算要求の概要	地域おこし協力員の活動に係る経費
要求額増減理由	住宅借上料の減
①支所	人口減少、少子高齢化により低下する地域力の維持強化を図るため、「地域おこし協力員」が方向性を持って活動し、将来的に地域の活性化と自立を促す必要がある。
②本庁所管課(地域政策課)	協力員の活動目標の明確化と、受入団体の体制及び地域との連携を強化することが必要である。
地域政策課	

財務部査定の考え方	他支所地域おこし協力員と統一
市長査定の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	20999	清見地域再発見事業	担当課	清見支所 基盤産業課	内線	3231
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2 総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1 総務管理費		O	C 終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	9 企画費		D	その他事業	
市長の約束	1	積極的な観光振興策を実施します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	再発見事業参加者	受益者数	90 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	地域の隠れた魅力を再発見し、堀起こすことにより地域の活性化に結びつける。		
概要	事業の実施手法(手段)	清見地域の資源及び清見が発祥を活用した飛騨牛の振興・PR。 今年、「みんなで牛っと元気な清見町の会」を中心に飛騨牛の消費拡大・PRを行う。		
前回の評価からの改善・改革のポイント	前年のツアーのアドバイスを検証し、各施設が連携をとりながら今後の誘客に結びつける。 地域住民が自らの土地に愛着を感じ、よさに気づくことにより地域を大切に守る意識を高める活動へ繋げる。			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
① 事業実施数	算出根拠等	実施実績	目標値		2	3	3
			実績値		2	3	
			達成率(%)		100	100	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
① 事業参加者人数	算出根拠等	参加実績	目標値		60	90	90
			実績値		51	90	-
			達成率(%)		85	100	-
コスト面	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
① 受益者1件当たり(円)	算出根拠等	事業費/事業実施回数	目標値		9,882	11,111	4,889
			実績値		51	90	90
			達成率(%)		252	333	253

コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	H21	H22	H23	H24
		決算額	決算見込額	予算額	実施計画額
	歳出(千円)	(A)	504	1,000	440
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)				
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				
	一般財源		504	1,000	440

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	既存の観光資源の再認識と新たな観光資源の発掘は市長の公約に結びつく。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	A	せせらぎ街道や飛騨牛は市民の認識が高く、ニーズは多い。
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	A	せせらぎ街道や飛騨牛は市民の認識が高く、効果が市民全体におよぶ。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	B	昨年はツアーを2回実施し、子供たちによる大倉湾の魅力の再認識と旅行のプロを交えたツアーの実施により、せせらぎ街道沿道施設の管理者の連携と誘客への手法が確認できた。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	参加者の意識の変化がみられ概ね有効である。
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	誘客のために具体的に何ができるのか検証する。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	A	2回目は冬期のツアーでバス代が安価でコスト削減できた。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	A	事業の成果を踏まえ適正である。
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	事業の成果を踏まえ概ね適正である。
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		15.0 / 20.0	100点換算 → 75 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	〇	完了
	せせらぎ街道沿いの資源及び清見が発祥の地である飛騨牛を核として、地域の農産物等の消費拡大を行い元気な清見にする。					

総合評価(二次評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	・成果の有効活用について検討する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	1,000	440	△ 560	300	300
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	1,000	440	△ 560	300	300

予算要求の概要	飛騨牛等の普及PR委託 先進地視察
要求額増減理由	事業見直しによる
①支所	飛騨牛発祥の地を切り口として、農商工連携したPR活動を強化し産業の活性化を図る必要がある。 恵まれない立地条件でも、キラリと光る活性化の優良事例を積極的に学び、発想の転換を図る必要がある。
②本庁所管課(地域政策課)	事業最終年度のため成果を検証したうえで、次年度以降も成果が生かされるためのしくみづくりが必要である。
地域政策課	

財務部査定 の考え方	積算内容を精査
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	51399 62199 51399 62199	清見グリーンツーリズム推進事業		担当課	清見支所 基盤産業課		内線	3241	
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事			
	款	5	農林水産業費		6	商工費	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	農業費		2	観光費	C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3	農業振興費		1	観光振興費	D	その他事業	
市長の約束	1	積極的な観光振興策を実施します。 ◎新たな観光資源を発掘し活用します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	グリーンツーリズム参加者	受益者数	2,609 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	自然体験を通じた高校生等の健全育成 木工職人の養成 既存の体験施設(おっぱら自然体験センター・すのまたふるさと学校・清見里人学校)と連携したグリーンツーリズムの推進。		
概要	事業の実施手法(手段)	ひだきよみ自然館の維持管理 ひだ清見グリーンツーリズム推進協議会を中心としたグリーンツーリズムPRの実施。		
前回の評価からの改善・改革のポイント	グリーンツーリズムの推進のため、ひだ清見グリーンツーリズム推進協議会を設立した。			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
① 研修生数	算出根拠等	たくみ塾3月末塾生	達成率(%)	77	63	90	-
			指標名	単位	目標・実績	H21	H22
② 自然館グリーンツー実施数	算出根拠等	実施実績	達成率(%)	100	80	90	-
			指標名	単位	目標・実績	H21	H22
① 3施設グリーンツー参加数	算出根拠等	3施設報告数値	達成率(%)	95	93	95	-
			指標名	単位	目標・実績	H21	H22
②	算出根拠等		達成率(%)				-
			指標名	単位	目標・実績	H21	H22
①	算出根拠等	受益者1件当たり(円)	達成率(%)	270	198	379	316
			指標名	単位	目標・実績	H21	H22
②	算出根拠等	3施設グリーンツー参加者	達成率(%)	8,525	9,317	9,500	9,500
			指標名	単位	目標・実績	H21	H22
②	算出根拠等	自然館グリーンツー実施数当たり(千円)	達成率(%)	115	115	200	150
			指標名	単位	目標・実績	H21	H22
算出根拠等	事業費/自然館グリーンツー事業数						

コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)	H21	H22	H23	H24	
		決算額	決算見込額	予算額	実施計画額	
	歳出(千円)	(A) 2,302	1,846	3,600	3,000	
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源	2,302	1,846	3,600	3,000	
コスト指標	指標名	H21	H22	H23見込	H24計画	
	① 受益者1件当たり(円)	(A/B) 270	198	379	316	
	② 受益者	3施設グリーンツー参加者 (B)	8,525	9,317	9,500	9,500
	② 自然館グリーンツー実施数当たり(千円)	115	115	200	150	
	算出根拠等	事業費/自然館グリーンツー事業数				

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	廃校を利用した3施設との連携によるグリーンツーは市長の公約に結びつく。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	A	市内の学校からの農業体験メニューの要請が増加しており、ある程度ニーズがある。
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	A	市内の学校からの農業体験メニューの要請が増加しており、概ね市民全体におよぶ。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	B	自然館の職員が地域内の体験施設のイベントに講師として派遣され連携をとってグリーンツーを実践している。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	専門的な講師の派遣によりメニューの充実が図られ、良好である。
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	秋口・冬場の施設利用者の少ない時期に集中して、グリーンツーを実施する。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	各施設管理者や施設関係者との連携によりコストを抑える。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	体験メニューの実施・それに伴う準備等を考慮すれば概ね適正である。
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	体験メニューの実施・それに伴う準備等を考慮すれば概ね適正である。
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		14.0 / 20.0	100点換算 → 70 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	○	縮小	廃止の検討	完了
	ひだ清見グリーンツーリズム推進協議会が中心となり、グリーンツーリズムを推進する。 ひだきよみ自然館は、民間団体等へ譲渡をすすめる。					

総合評価(二次評価)	維持・改善	拡大	○	縮小	廃止の検討	完了
	(担当課評価に同じ)					

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	3,600	3,000	△ 600	2,620	2,620
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他	3,600	3,000	△ 600	2,520	2,520
地域振興特別予算				100	100

予算要求の概要	ひだきよみ自然館の維持管理 清見地域の自然体験施設が連携した自然体験活動にかかる経費
要求額増減理由	需用費の減
①支所	平成23年9月に設立された「ひだ清見グリーンツーリズム推進協議会」が、主体性を持ちグリーンツーリズム推進を実施するため、事業内容を精査し負担事業を明確にする必要がある。
②本庁所管課(農務課、観光課)	ふるさと体験飛騨高山が実施する誘致宣伝事業と重複しないよう事業内容の精査が必要。 市以外の構成団体の負担割合等について明確にしておく必要がある。 ひだきよみ自然館の譲渡
地域政策課	
	主催する民間の関連団体と、行政の役割分担を明確にする必要がある。

財務部査定 の考え方	積算内容を精査
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	54199	タナ洞排水路登記事業	担当課	清見支所 基盤産業課	内線
予算	会計	1 一般会計	特別予算の位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	5 農林水産業費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	4 農業土木費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	1 農業土木総務費		D	その他事業
市長の約束	6	市民の生活と生命・財産を守ります			

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	水路内に残る民地の地権者	受益者数	5
	どういう状態にしたいのか(意図)	水路内の未登記の整理により、所有者主張によるトラブルを解消し、適正な水路管理を行う。		
概要	事業の実施手法(手段)	水路未登記箇所の確定測量を行い登記関係書類を作成し、所有者からの寄付により水路用地として高山市へ所有権移転登記を行う。		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 対象水路数	算出根拠等	現況未登記水路数	本	目標値	-	-	-
実績値			-	-	-	-	-	
②	算出根拠等	達成率(%)		目標値	-	-	-	-
		実績値	-	-	-	-	-	
① 登記必要筆数	算出根拠等	見積筆数	筆	目標値	-	-	-	20
		実績値	-	-	-	-	-	
②	算出根拠等	達成率(%)		目標値	-	-	-	-
		実績値	-	-	-	-	-	
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額	
	歳出(千円)		(A)	-	-	-	1,300	
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)			-	-	-	-	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			-	-	-	-	
コスト指標	一般財源			-	-	-	1,300	
	指標名			H21	H22	H23見込	H24計画	
①	受益者1件当たり(円)		(A/B)	-	-	-	260,000	
	受益者	市民(4月1日現在)	(B)	-	-	-	5	
②	登記必要筆数			-	-	-	20	
	算出根拠等			-	-	-	-	

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2) 結びつく	A	水路管理者として適正管理により、整備等進める上で安全を確保する観点からも市長の公約に結びつく
	B(1) 一部結びつく		
	C(0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2) 非常に多い、急増している	B	水路の整備の要望を地元要望から受けており、整備する上で水路管理者として未登記の整理を行う
	B(1) ある程度のニーズがある		
	C(0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2) 市民全体におよぶ	B	水路内の土地所有権を主張されるトラブルを未然に防ぎ、又、整備することにより安全な街づくりを行う
	B(1) 概ね市民全体におよぶ		
	C(0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2) 十分に達成している (100%以上)	評価対象外	平成24年度新規事業のため
	B(1) 概ね達成している (75%以上)		
	C(0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2) 有効である	評価対象外	平成24年度新規事業のため
	B(1) 概ね有効である		
	C(0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2) 課題はない・解消されている	評価対象外	平成24年度新規事業のため
	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2) 課題はない・解消されている	評価対象外	平成24年度新規事業のため
	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2) 適正である	評価対象外	平成24年度新規事業のため
	B(1) 概ね適正である		
	C(0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4) 適正である	評価対象外	平成24年度新規事業のため
	B(2) 概ね適正である		
	C(0) 改善が必要である		
合計	4.0 / 6.0	100点換算	67 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	〇	縮小	廃止の検討	完了
	未登記水路の登記完了を目指す。					
総合評価(二次評価)	維持・改善	拡大		縮小	廃止の検討	完了
議会からの提言等						

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)		1,300	1,300	1,300	1,300
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算		1,300	1,300	1,300	1,300

予算要求の概要	未登記水路用地の調査・測量
要求額増減理由	新規事業のため
①支所	水路の適正管理のため、未登記部分につき登記が必要である。また、水路の整備について、地元町内会より要望がでているので、登記完了後に検討を要する。
②本庁所管課(農務課)	水路整備については、地元町内会より要望が出されており、今後整備を行うためには未登記処理が必要である。
地域政策課	水路未登記処理については他に事例がないか確認し、地域振興特別予算措置期間に完了することが必要である。

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	62199	ひだ清見お帰りキャンペーン事業	担当課	清見支所 基盤産業課	内線	3231
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6 商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2 観光費		O	C 終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1 観光振興費		D	その他事業	
市長の約束	1	積極的な観光資源策を実施します。 ◎新たな観光資源を発掘し活用します。 ・観光まちづくりを持続可能なものとするため、飛騨地域の民間組織と行政、観光関係者をはじめ、地域住民などの関係者と幅広く連携し、広域ネットワーク化を図ります。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	荘川清見住民	受益者数	3,896 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	荘川地域と連携して、せせらぎ街道・やまびこ街道・さくら街道の利用者増を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	荘川・清見観光客誘致推進協議会を核にキャンペーンの実施・誘客パンフレットの印刷等を行う。		
	前回の評価からの改善・改革のポイント	誘客パンフレットを道の駅だけでなく、名古屋周辺・富山等のサービスエリアに配布し、PRを積極的に実施。		

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① お帰りマップ配布枚数			枚	目標値	18,000	10,000	10,000
			実績値	18,000	9,900	10,000		
算出根拠等				達成率(%)	100	99	100	-
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値				
②				実績値				-
				達成率(%)				-
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	450,000	460,000	470,000	480,000
① 清見町入込客数			人	実績値	456,158	465,784	470,000	-
				達成率(%)	101	101	100	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム・							
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	454,197	456,158	465,784	470,000
② 入込客数前年対比			人	実績値	456,158	465,784	470,000	-
				達成率(%)	100	102	101	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム・							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)				(A) 2,166	2,975	4,000	1,000
	受益者負担(使用料・負担金等)							
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
コスト面	一般財源				2,166	2,975	4,000	1,000
	指標名				H21	H22	H23見込	H24計画
	①	受益者1件当たり(円)		(A/B)	828	758	1,027	257
		受益者		荘川・清見町住民 (B)	2,617	3,925	3,896	3,896
②	1事業当たり(千円)			542	595	667	500	
	算出根拠等				事業費/事業実施数			

3 分析・評価(Check)

必要性	評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など		
		A(2)	B(1)				
①	事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	荘川地域の関係機関と連携して協議会を設立し、市長の公約に結びつく。		
		B(1)	一部結びつく				
		C(0)	結びつかない				
②	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	A	春の桜・秋の紅葉等市民のニーズはある。		
		B(1)	ある程度のニーズがある				
		C(0)	少ない、減少している				
③	事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	A	せせらぎ街道・やまびこ街道を利用することにより、市民全体におよぶ。		
		B(1)	概ね市民全体におよぶ				
		C(0)	わずかな受益者に限定される				
④	事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	春の桜ちらしの配布や・お帰りマップの作成により誘客は概ね達成している。		
		B(1)	概ね達成している (75%以上)				
		C(0)	あまり順調でない (75%未満)				
⑤	成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	春の桜ちらしの配布や・お帰りマップの作成により誘客は概ね有効である。		
		B(1)	概ね有効である				
		C(0)	見直しが必要である				
⑥	事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	3年間実施した交通量調査を分析し、誘客増加の手法を確立する。		
		B(1)	改善・工夫に取り組んでいる				
		C(0)	対応していない				
⑦	コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	A	荘川・清見の連携により広域でのPRが行えコストの課題はない。		
		B(1)	改善・工夫に取り組んでいる				
		C(0)	対応していない				
⑧	受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	荘川・清見の連携による事業である、コストは概ね適正である。		
		B(1)	概ね適正である				
		C(0)	改善が必要である				
⑨	成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	観光客誘致により、沿線の各商工業者が活性化されコストは概ね適正である。		
		B(2)	概ね適正である				
		C(0)	改善が必要である				
合計		15.0 / 20.0		100点換算		75 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止の検討	<input type="checkbox"/> 完了
	荘川・清見観光客誘致推進協議会を核にキャンペーンの実施・誘客パンフレットの印刷等を行う。				

総合評価(二次評価)	<input type="checkbox"/> 維持・改善	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止の検討	<input type="checkbox"/> 完了
	・民間(観光関係団体等)主体の活動とすべく、負担金の段階的な引き下げを行う必要がある。 ・特例期間終了を見据え、地域への波及効果などの分析を行いつつ、行政の関与を段階的に縮小していく必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	4,000	1,000	△ 3,000	1,000	1,000
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	4,000	1,000	△ 3,000	1,000	1,000

予算要求の概要	誘客キャンペーン事業負担金
要求額増減理由	交通量調査・分析事業の減
①支所	両地域の文化、伝統や特徴を相互に理解し、連携の強化を図り誘客PRを実施する必要がある。
②本庁所管課(観光課)	滞在・周遊型観光を促進するために、地域間の連携強化を図る必要がある。
地域政策課	
	事業効果の詳細な分析と今後の取り組みへの反映が必要である。

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	74799	せせらぎ街道スポット整備事業	担当課	清見支所 基盤産業課	内線	3241
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	7 土木費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4 都市計画費		O	C 終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	7 快適環境整備費		D	その他事業	
市長の約束	1	積極的な観光振興策を実施します。 ◎新たな観光資源を発掘し活用します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	清見町住民	受益者数	2,609 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	高山市の玄関口として、道路利用者の増加を図るため沿道の景観保全事業を行う。併せて、沿道の清見運動公園周辺にある高木の枝処理を行うことで、施設周辺の景観保全に努める。		
概要	事業の実施手法(手段)	景観保全事業 高木の枝処理		
概要	前回の評価からの改善・改革のポイント	せせらぎ街道の保全や周辺整備とあわせて訪れた方々が立ち寄れるスポットの整備を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
① 修景整備面積(ha)	算出根拠等	ha	目標値	0	6	16	
			実績値	0	6	16	
② せせらぎ街道入込客数	算出根拠等	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
① 入込客前年比	算出根拠等	人	目標値	166,635	160,899	178,692	185,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
②	算出根拠等	人	目標値	166,635	160,899	178,692	185,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-
算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム入込客	人	目標値	170,000	170,000	180,000	180,000
			実績値	160,899	178,692	180,000	-

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	94799	清見民俗資料館修繕整備事業	担当課	清見支所 地域振興課	内線	3211
予算	会計	1 一般会計	特別予算の位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4 社会教育費		O	C 終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	7 文化財費		D	その他事業	
市長の約束	10	市民のための行政改革を断行します。 ◎将来を見据えて今必要な行政改革をすぐに断行します。 ・市の施設や支所の改修を進めるほか、遊休施設・土地などの有効活用を行います。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	清見町住民	受益者数	2,609 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	屋根及び外壁が老朽化したため塗装修繕をして貴重な民俗資料を保存する。		
概要	事業の実施手法(手段)	屋根塗装修繕面積 523㎡ 外壁塗装修繕面積 542㎡(板壁239㎡ トタン壁303㎡)		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 屋根塗装修繕工事	算出根拠等		㎡	目標値			
				実績値				
	算出根拠等			達成率(%)				-
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	② 修繕面積	算出根拠等		㎡	目標値			
				実績値				
	算出根拠等			達成率(%)				-
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額		
	歳出(千円)		(A)				1,550	
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)							
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
一般財源						1,550		
コスト指標	指標名		H21	H22	H23見込	H24計画		
	① 受益者1件当たり(円)	(A/B)					594	
受益者		利用された住民	(B)				2,609	
算出根拠等	② 1㎡当たりの修繕工事費						3	
	事業費/修繕面積							

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A (2) 結びつく	B	・総合計画の「ゆたかさ」あるまちをめざしてのうち、郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝える活動に結びつく。
	B (1) 一部結びつく		
	C (0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A (2) 非常に多い、急増している	A	老朽化による保存品への影響を懸念する声が増えてきており、景観も悪いため早急に修繕が必要である。
	B (1) ある程度のニーズがある		
	C (0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A (2) 市民全体におよぶ	B	過去の民俗資料として、後世に伝えていくべく大切な資料集であり、保全には十分配慮すべきものである。
	B (1) 概ね市民全体におよぶ		
	C (0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A (2) 十分に達成している (100%以上)	評価対象外	平成24年度新規事業のため
	B (1) 概ね達成している (75%以上)		
	C (0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A (2) 有効である	評価対象外	平成24年度新規事業のため
	B (1) 概ね有効である		
	C (0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A (2) 課題はない・解消されている	評価対象外	平成24年度新規事業のため
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A (2) 課題はない・解消されている	評価対象外	平成24年度新規事業のため
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A (2) 適正である	評価対象外	平成24年度新規事業のため
	B (1) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A (4) 適正である	評価対象外	平成24年度新規事業のため
	B (2) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
合計	4.0 / 6.0	100点換算	67 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	貴重な民俗資料を保存するための建物の老朽化が著しく、緊急に屋根の修繕を実施する。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	0	1,550	1,550	1,500	1,500
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算		1,550	1,550	1,500	1,500

予算要求の概要	屋根塗装修繕の工事費
要求額増減理由	新規事業のため
①支所	屋根の塗装が剥がれて錆びで赤くなっており、早急に修繕が必要である。放置していると雨漏りし、施設及び民俗資料等が破損等するため早急に行う必要がある。
②本庁所管課(文化財課)	・民俗資料の保護の観点から修繕を行い、収蔵庫としての利用を考えている。 ・今後は他地域との調整も含め、民俗資料等の活用を検討する必要がある。
地域政策課	
所蔵の民俗資料の利活用を踏まえた施設の将来的なあり方の検討が必要である。	

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	51399	新規就農者研修施設管理事業	担当課	清見支所 基盤産業課	内線	3231
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	5 農林水産業費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1 農業費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3 農業振興費		○ D	その他事業	
市長の約束	3	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します。 ◎次代につながる農業を実現します。 ・農業を、豊かで広大な自然環境の恵みを生かして、技術と経営の一体的な確立を図り、次世代につながる産業に育てるため人材育成(後継者育成・新規就農者獲得・就農体験・研修制度)、農商工連携による第6次産業化などの施策を、農業従事者の声を聞きながら積極的、かつ合理的に実施します。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	施設利用者	受益者数	4 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	新規就農希望者に研修施設を提供することで、就農者の増加を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	新規就農者研修施設の維持管理。		
前回の評価からの改善・改革のポイント	研修生の受入体制をおどりファーム等と連携して、強化する。			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 研修施設入居者	算出根拠等	入居実績	人	目標値	4	4	4
				実績値	4	3	3	-
	算出根拠等	入居実績		達成率(%)	100	75	75	-
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 入居者の遊休農地耕作面積	算出根拠等	農家台帳	a	目標値	50	100	100
				実績値	49	98	117	-
	算出根拠等	農家台帳		達成率(%)	98	98	117	-
コスト面	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 受益者1件当たり(円)	算出根拠等	事業費/遊休農地耕作面積	(A/B)	目標値	32,250	40,000	66,667
				実績値	4	3	3	4
	算出根拠等	事業費/遊休農地耕作面積		達成率(%)	2,580	1,200	2,000	2,000

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	農業の人材育成のためにも市長の公約に結びつく。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	地域の農家は荒廃地を防止するためにも就農者のニーズはある。
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	C	施設の設置箇所から小島地域に限定されるため、受益者が限定される。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	B	施設利用者が退去して地域内で定住するケースも現れ十分達成している。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	施設利用者が退去して地域内で定住するケースも現れ有効である。
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	利用者の増加に向けて、関係機関と連携してPRしている。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	利用者の増加に向けて、関係機関と連携してPRしている。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	A	施設最低限の維持管理費であり、適正である。
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	A	施設最低限の維持管理費であり、適正である。
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		14.0 / 20.0	100点換算 → 70 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	新規就農研修施設は高山市で唯一の施設であり、継続する。今後、関係機関と連携して入居者の募集を行う。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・新規就農研修施設は高山市で唯一の施設であるが、今後の継続については事業効果を踏まえ判断する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	200	200	0	200	200
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他	200	200	0	200	200
地域振興特別予算					

予算要求の概要	施設の維持管理に係る経費
要求額増減理由	
①支所	施設の利用率を高めるため、就農希望者へのPRが必要である。また、就農希望者が入居期間満了後、就農や新たな住居の確保を支援していく必要がある。
②本庁所管課(農務課)	新規就農者を支援する施設として今後も必要である。就農希望者へ積極的にPRする必要がある。
地域政策課	
	移住交流施策に係る関連施設としての位置付けに向けた検討が必要である。

財務部査定の考え方	要求どおり
市長査定の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	74799	幹線道路沿線環境整備事業	担当課	清見支所 基盤産業課	内線	3241
予算	会計	1 一般会計	特別予算の位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	7 土木費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4 都市計画費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	7 快適環境整備費		O	D その他事業	
市長の約束	1	積極的な観光振興策を実施します。 ◎新たな観光資源を発掘し活用します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	清見町住民	受益者数	2,609 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	清見地内幹線道路の沿道修景事業を実施し、来訪者に高山市の玄関口として整備された景観を提供し、気持ちよくドライブを満喫してもらう。		
概要	事業の実施手法(手段)	清見地内幹線道路の草刈		
	前回の評価からの改善・改革のポイント	作業範囲が広大で、草刈作業が長期間におよぶため、せせらぎ街道をボランティア活動にあわせて実施する。		

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	算出根拠等	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
					目標値	実績値	達成率(%)	
成果面	①	草刈延長	km	目標値	30	30	30	30
				実績値	30	30	30	
成果指標	算出根拠等	契約延長	達成率(%)	H21	100	100	100	-
				H22	100	100	100	
成果面	①	清見町入込客数	人	目標値	450,000	460,000	470,000	480,000
				実績値	456,158	465,784	470,000	-
成果指標	算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム・七社入	達成率(%)	H21	101	101	100	-
				H22	101	101	100	
成果面	②	入込客数前年対比	人	目標値	454,197	456,158	465,784	470,000
				実績値	456,158	465,784	470,000	-
成果指標	算出根拠等	パスカル・ウッドフォーラム・七社入	達成率(%)	H21	100	102	101	-
				H22	100	102	101	
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H21決算額	H22決算見込額	H23予算額	H24実施計画額	
	歳出(千円)			(A) 2336	1895	2000	1700	
コスト面	受益者負担(使用料・負担金等)							
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
コスト面	一般財源			2336	1895	2000	1700	
	指標名			H21	H22	H23見込	H24計画	
コスト面	①	受益者1件当たり(円)	(A/B)	893	720	767	652	
		受益者	清見町住民(4/1現在)(B)	2,617	2,631	2,609	2,609	
コスト面	②	草刈1km当たり(千円)		78	63	67	67	
		算出根拠等	事業費/草刈延長					

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	環境保全の重要性を理解し、みんなでより良い環境を創り上げ次世代に残すことを使命と考え、その活動を推進することが市長の公約に結びつく。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	道路利用者からある程度のニーズがある。
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	幹線道路利用者全員におよぶ。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	景観が整備され、十分に達成している。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	快適なドライブを満喫するため、有効である。
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	A	できるだけお盆に完了するよう指導している。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	A	シルバー人材センターに委託しているため、課題はない。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	A	シルバー人材センターに委託しているため、課題はない。
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	A	シルバー人材センターに委託しているため、課題はない。
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		18.0 / 20.0	100点換算 → 90 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	高山市の西の玄関口として、道路周辺景観を保全するためにも継続する。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・岐阜県が管理する道路の草刈りは、道路管理者に安全確保の観点から事業実施を要望する必要がある。なお、清見地域の地域振興となるよう実施し、事業効果を精査する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	2,000	1,700	△ 300	1,700	1,700
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	2,000	1,700	△ 300	1,700	1,700

予算要求の概要	草刈業務にかかる経費
要求額増減理由	作業実施面積の減

①支所	せせらぎ街道、やまびこ街道、卯の花街道は、生活道路であると共に観光道路として重要であり、ボランティアによる作業や県と連携し景観を保持する必要がある。
②本庁所管課(都市整備課)	四季折々の美しい景観を保全するため、現地の状況確認及び草刈業務時期の適正な判断が必要である。
地域政策課	樹木花等の植栽、草刈等、地域振興特別予算で措置されている類似事業については、景観保全、安全確保等の視点から全庁的な検討、調整が必要である。

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	91499	中学校部活動通学支援事業	担当課	清見支所 地域振興課	内線	3210
予算	会計	1 一般会計	特別予算の位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1 教育総務費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3 スクールバス管理費		O	D その他事業	
市長の約束	4	個人・家庭・地域を大切にする社会を築きます ・地域住民が自らの地域を改善、振興する活動を支援するため地域振興特別予算を全市域に拡大し権限と予算の地域移譲を図ります。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	遠距離通学生徒	受益者数	39 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	清見中学校部活動のため通学距離6km以上の生徒を対象にしたバス券購入		
概要	事業の実施手法(手段)	中学校部活動実施にあたり、遠距離通学生徒が公共交通機関(バス)を利用する際のバス券購入に対する助成		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	算出根拠等	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
					目標値	実績値	達成率(%)	
① 部活動遠距離通学生徒	利用者数/対象生徒数	部活動遠距離通学生徒	人	目標値	35	35	40	33
				実績値	35	35	40	
				達成率(%)	100	100	100	-
成果指標	算出根拠等	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
					目標値	実績値	達成率(%)	
① 部活動通学支援利用件数	利用枚数(40枚)/対象生徒数	部活動通学支援利用件数	回	目標値	1,400	1,400	1,800	750
				実績値	942	651	1,800	-
				達成率(%)	67	47	100	-
コスト面	算出根拠等	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
					目標値	実績値	達成率(%)	
① 受益者1件当たり(円)	事業費/バス券利用回数	受益者1件当たり(円)	(A/B)	目標値	14,514		4,615	2,273
				実績値	35	35	39	33
				達成率(%)			330	330

コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額	
	歳出(千円)	(A)	508	0	180	75
	受益者負担(使用料・負担金等)					
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
財源内訳	一般財源	508	0	180	75	
コスト指標	指標名	H21	H22	H23見込	H24計画	
	① 受益者1件当たり(円)	(A/B)	14,514		4,615	2,273
	② 受益者	遠距離通学生徒数 (B)	35	35	39	33
	算出根拠等	事業費/バス券利用回数			330	330

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A (2) 結びつく	A	通学バスの運行も併せて、広いエリアを持つ清見地域において重要な支援である。
	B (1) 一部結びつく		
	C (0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A (2) 非常に多い、急増している	C	公共交通の利用が減少傾向にある。但し、送迎できない親からは強い要望がある。
	B (1) ある程度のニーズがある		
	C (0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A (2) 市民全体におよぶ	C	中学生に限定された制度である
	B (1) 概ね市民全体におよぶ		
	C (0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A (2) 十分に達成している (100%以上)	C	近年の傾向として親の送迎に頼る生徒が年々増加しており、利用者が減っている状況であり、利用促進をする必要がある。
	B (1) 概ね達成している (75%以上)		
	C (0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A (2) 有効である	B	部活動への参加に係る負担を減らすために実施している
	B (1) 概ね有効である		
	C (0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A (2) 課題はない・解消されている	B	今後市内の部活動に伴う交通手段の確保について均衡を図るため検討が必要である。
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A (2) 課題はない・解消されている	A	公共交通機関の見直しによりバス料金が減額されコストは大幅に削減された
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A (2) 適正である	A	公共交通機関の料金設定による
	B (1) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A (4) 適正である	A	
	B (2) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
合計	12.0 / 20.0	100点換算	60 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	公共交通事業の見直しによりバスの運行本数が減ったため、部活動時間に併せたバス運行ができず利用者が減少傾向にある。公共交通機関の利用者増のためにも、バス利用を促進させる努力も必要である。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・公共交通での対応も視野に入れながら、スクールバス利用についての考え方を調整する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	180	75	△ 105	80	80
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	180	75	△ 105	80	80

予算要求の概要	部活動のために遠距離通学をする生徒に対するバス券の助成
要求額増減理由	バス運賃の減
①支所	教育の一貫として部活動を位置づけるなら、通学6km以上のエリアには、援助が必要と考える。
②本庁所管課(教育総務課)	合併前から実施しているものであり、遠距離という地域性を考慮し次年度も実施する。今後、公共交通事業との関連や部活動のあり方を精査のうえ、全市的に検討することとする。
地域政策課	
	部活動に係るスクールバス利用については、全市的なあり方の検討が必要である。

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	20999	地域振興事業補助金	担当課	清見支所 地域振興課	内線	3210
予算	会計	1 一般会計	特別予算の位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2 総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1 総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	9 企画費		O	D その他事業	
市長の約束	4	個人・家庭・地域を大切に作る社会を築きます ・地域住民が自らの地域を改善、振興する活動を支援するため地域振興特別予算を全市域に拡大し権限と予算の地域移譲を図ります。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	清見町住民	受益者数	2,609 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	地域住民の創意と工夫による魅力ある地域づくりを推進するため、市民自らが主体となって取り組む地域振興事業を支援する		
概要	事業の実施手法(手段)	地域の住民が自主的、主体的に取り組む公共性の高い地域づくり事業への補助を行う		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
① 補助金交付件数		件	目標値	13	13	13	13
			実績値	17	11	13	13
算出根拠等	要望件数/実績件数		達成率(%)	131	85	100	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
① 補助金受益対象者		人	目標値	2,617	2,631	2,609	2,609
			実績値	5,575	8,933	5,000	-
算出根拠等	受益者地区の人口		達成率(%)	213	340	192	-
コスト面	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
① 受益者1件当たり(円)	(A/B)		目標値	1,264	1,519	1,150	767
			実績値	2,617	2,631	2,609	2,609
算出根拠等			達成率(%)				
事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額
歳出(千円)(A)				3309	3996	3000	2000
財源内訳	指標名			H21	H22	H23見込	H24計画
	受益者負担(使用料・負担金等)						
その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
一般財源			3309	3996	3000	2000	
コスト指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
① 受益者1件当たり(円)	(A/B)		目標値	1,264	1,519	1,150	767
			実績値	2,617	2,631	2,609	2,609
算出根拠等			達成率(%)				

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	地域の個性あるまちづくりと、市域との一体感を創るため、地域が手を取り合って取り組む活動に支援されている
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	A	人口減少や高齢化等により地域活動が縮小している現状にあり、地域からの財政的支援のニーズは高い
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	A	地域住民が自らの地域改善に取り組む活動は地域により差はみられるが、全体的に要望があり概ね地域住民に効果が及ぶ
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	地域ごとに工夫の成果がみられ、なかには補助金制度の活用を検討する中で地域活性化が図られている例もある
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	住民が主体となって取り組む過程が、地域力持続に効果的である
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	継続的に制度化されたものではないため、投資的な活用ができるものとする方向へ誘導する工夫が必要となる
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	A	人的労力は地域住民が行うことが条件のためコスト削減の工夫がされ、地域業者への経済効果もある。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	A	1事業あたりの金額を設定し、各地域平均的に実施している
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	A	市の契約基準に併せて実施しており適正である
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		19.0 / 20.0	100点換算 → 95 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	人口減少や高齢化等により地域活動が縮小している現状にあって財政的支援のニーズは高く、計画的な地域づくりとなる事業とする。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査し、27年度以降の対応を検討する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	3,000	2,000	△ 1,000	2,500	2,500
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	3,000	2,000	△ 1,000	2,500	2,500

予算要求の概要	地域住民が自主的、主体的に取り組む公共性の高い地域づくり事業に対する
要求額増減理由	
①支所	
②本庁所管課(地域政策課)	
地域政策課	

財務部査定 の考え方	要求どおり アンテナショップ運営補助金を追加
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	20999	地域要望対応事業	担当課	清見支所 基盤産業課	内線	3231
予算	会計	1 一般会計	特別予算の位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2 総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1 総務管理費		O	C 終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	9 企画費		D	その他事業	
市長の約束	4	合併のメリットを活かしつつ、それぞれの地域の個性を伸ばします。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	清見町住民	受益者数	2,609 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	地域住民の要望の即応する市有施設の修繕工事。		
概要	事業の実施手法(手段)	地域の特性や事情を検討して、予算の趣旨に沿った適正な執行を支所長権限で行う。		
	前回の評価からの改善・改革のポイント	地区に偏らないよう説明・指導し運用する。		

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	① 実施事業	算出根拠等	事業実績	達成率(%)			
				H21	H22	H23見込	H24計画
成果面	②	算出根拠等	目標値				
			実績値				
成果指標	① 実施受益者	算出根拠等	清見町住民(4/1現在)	177	209	100	-
			達成率(%)				
コスト面	②	算出根拠等	全体事業費/実施事業数	373	323	385	250
			達成率(%)				

コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	H21 決算額				H22 決算見込額				H23 予算額				H24 実施計画額									
		歳出(千円)				(A)				4850				5814				5000				3000	
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)																						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)																						
コスト指標	一般財源	4850				5814				5000				3000									
	指標名	H21	H22	H23見込	H24計画																		
①	受益者1件当たり(円)	(A/B)	1,853	2,210	1,916	1,150																	
	受益者	清見町住民(4/1現在)	(B)	2,617	2,631	2,609	2,609																
②	1事業当たり(千円)		373	323	385	250																	

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など	
	A(2)	B(1)			
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	信頼される支所運営を目指し、権限と予算の再構築を行う上で市長の公約に結びつく。	
	B(1)	一部結びつく			
	C(0)	結びつかない			
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	A	地域要望を迅速に実施できることからニーズが多い。	
	B(1)	ある程度のニーズがある			
	C(0)	少ない、減少している			
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	清見地域内の施工であるが、交通網の整備により、概ね市民におよぶ。	
	B(1)	概ね市民全体におよぶ			
	C(0)	わずかな受益者に限定される			
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	地域要望に即応するので、十分達成している。	
	B(1)	概ね達成している (75%以上)			
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)			
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	地域の苦情解消の事業であるため、有効である。	
	B(1)	概ね有効である			
	C(0)	見直しが必要である			
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	事業費の枠があるため、一般予算対応の事業がある。	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	A	市の設計基準に基づいて設計しており、課題はない。	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	A	必要最小限の修繕であり、適正である。	
	B(1)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	A	必要最小限の修繕であり、適正である。	
	B(2)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
合計		18.0 / 20.0	100点換算		90 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止の検討	<input type="checkbox"/> 完了
	地域の要望に即応するため、継続する。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止の検討	<input type="checkbox"/> 完了
	・平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査し、27年度以降の対応を検討する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	5,000	3,000	△ 2,000	4,100	4,100
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	5,000	3,000	△ 2,000	4,100	4,100

予算要求の概要	公共施設等の軽微な修繕経費
要求額増減理由	
①支所	
②本庁所管課(地域政策課)	
地域政策課	

財務部査定の考え方	きめ細かな地域要望対応を推進(配分額の調整による)
市長査定の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	62399	大原地域活性化事業	担当課	清見支所 基盤産業課	内線	3231
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6 商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2 観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	2 観光施設費		O D	その他事業	
市長の約束	10	市民のための行政改革を断行します。 ◎将来を見据えて今必要な行政改革をすぐに断行します。 ・市の施設や支所の改修を進めるほか、遊休施設・土地などの有効活用を行います。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	大原地区住民	受益者数	86 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	ホテルパスカル清見の試行的活用と周辺広場の修景。		
概要	事業の実施手法(手段)	ホテルパスカル清見と大原体験施設との連携により地域全体でグリーンツーリズムを推進する。		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 体験館の利用人数(ホテルパスカル清見隣接施設)	目標値		人				90
実績値							90	
算出根拠等		H23計画値		達成率(%)			100	-
② 大原体験施設の利用者	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	目標値		人				2,000	2,000
	実績値						2,000	-
算出根拠等	大原体験施設実績			達成率(%)			100	-
① 大原体験施設の利用前年比	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	目標値		人				2,000	2,000
	実績値						2,000	-
算出根拠等	大原体験施設実績			達成率(%)			100	-
②	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	目標値							
	実績値							-
算出根拠等				達成率(%)				-
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)(A)				-	-	2,400	2,000
	受益者負担(使用料・負担金等)							
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
	一般財源				-	-	2,400	2,000
コスト指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 受益者1件当たり(円)(A/B)	受益者	大原地区住民(4/1現在)(B)				27,907	23,256
		大原体験施設利用者当たり(円)					1,200	1,000
	算出根拠等	事業費/大原体験施設利用者						

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	遊休施設の有効活用のためにも市長の公約に結びつく。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	A	バスカル公園は、道の駅とホテルとそれを取り囲む周辺景観と一体となった施設であり、ニーズはある。
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	A	バスカル公園全体の爽やかな景色は高山市の玄関口として効果が高い。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	評価対象外	H23新規事業のため
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	今年は、試験的な運用で活動は概ね有効である。
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	A	夏休みの利用者ピーク時に大原体験施設と連携して、分散利用をしている。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	施設を利用できる最小限のコストであり、改善に取り組んでいる。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	施設を利用できる最小限のコストであり、概ね適正である。
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	施設を利用できる最小限のコストであり、概ね適正である。
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		13.0 / 18.0	100点換算	72 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	○	縮小	廃止の検討	完了
	施設の試験的活用については、今年度の成果を十分に検証し、地域住民と検討する。尚、周辺広場の修景については、今後も継続する。					

総合評価(二次評価)	維持・改善	拡大	○	縮小	廃止の検討	完了
	・ホテルパスカルの将来的な活用方針を定める必要がある。					

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	2,400	2,000	△ 400	1,200	1,200
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	2,400	2,000	△ 400	1,200	1,200

予算要求の概要	ホテルパスカル清見の施設管理
要求額増減理由	実績による減
①支所	大原地域が主体的に取り組む試行的活用を検証し、本格利用に移行できるよう検討していく必要がある。
②本庁所管課(観光課)	本格格的利用に向けて、運営方法を検討する必要がある。
地域政策課	大原地域活性化に向けた具体的な振興策・方向性を地域団体及び地域おこし協力員とともに積極的かつ効率的に進めることが必要である。

財務部査定 の考え方	積算内容を精査
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	種別	土地借上料		担当課	清見支所 地域振興課 清見支所 基盤産業課		内線 3231
		種別	種別				
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款		総務費、農林水産、商工費		O	B 一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項		総務管理、林業費、商工費、観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目		財産管理、林業振興費、商工振興費、観		D	その他事業	
市長の約束	10						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	受益者数	人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	市施設用地の借地について、市基準値で契約を締結する。	
概要	事業の実施手法(手段)	市の基準単価を上回る土地賃貸借	
前回の評価からの改善・改革のポイント	・市の基準単価に基づく設定への移行を目指し、所有者との協議を実施している。		

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
活動指標	① 借上件数	件	目標値	31	31	31	31
			実績値	31	31	31	-
	算出根拠等	土地賃借契約書	達成率(%)	100	100	100	-
	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
成果面	②		目標値				
			実績値				
	算出根拠等		達成率(%)				-
	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
成果指標	① 借上面積	m2	目標値	28,218	27,544	26,968	26,968
			実績値	28,218	27,544	26,968	-
	算出根拠等	土地賃借契約書	達成率(%)	100	100	100	-
	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
成果指標	② 賃料の適正化	千円	目標値	5,887	5,887	5,887	5,887
			実績値	5,887	5,887	5,887	-
	算出根拠等		達成率(%)	100	100	100	-
	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額		
歳出(千円)	(A)	6,153	5,846	5,887	5,887		
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
財源内訳	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
財源内訳	一般財源	6,153	5,846	5,887	5,887		
コスト面	指標名	H21	H22	H23見込	H24計画		
	① 受益者1件当たり(円)	(A/B)	198,484	188,581	189,903	189,903	
		(B)	31	31	31	31	
	② 借上面積1m2当たり(円)		218	212	218	218	
算出根拠等	事業費/借上面積						

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	借上している土地は生活環境保全林や公園等であり住民の憩いの場や観光資源として活用しているもので、市長の公約に結びつく。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	A	近年の自然体験ブームにより、市民のニーズは高い。
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	A	近年の自然体験ブームにより、市民全体におよぶ。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	近年の自然体験ブームにより、達成している。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	多くの市民等が立ち寄れる施設の管理はリピーター性を高めるためにも、有効である。
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	市の基準単価に近づこう交渉している。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	市の基準単価に近づこう交渉している。また、借地面積の見直しを行う。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	C	市の基準単価に近づこう交渉している。
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	市の基準単価より高い場所もあるが概ね適正である。
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		14.0 / 20.0	100点換算 → 70 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	市の基準単価に近づけ借地面積を必要最小限に抑える				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	市の基準に近づこう単価交渉を継続する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	5,887	5,887	0	5,887	5,887
財源内訳					
国庫支出金	0	0	0		
県支出金	0	0	0		
起債	0	0	0		
その他	0	0	0		
地域振興特別予算	5,887	5,887	0	5,887	5,887

予算要求の概要	土地借上料
要求額増減理由	単価の見直しによる
①支所	市の基準に近づこう単価交渉の継続が必要
②本庁所管課(管財課、林務課、商工課、観光課)	施設の継続的運営のため、市基準額での土地借上料に近づこう単価交渉を継続する必要がある。
地域政策課	
地域振興特別予算措置期間に基準内の借地料となるよう交渉が必要である。	

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり